

出来事（2018年9月）

1. 遺伝子組換え食品（厚生労働省）

ゲノム編集技術を利用して得られた食品（農産物等）について、食品衛生法上の取扱いが厚生労働省薬事食品衛生審議会 食品衛生分科会 新開発食品調査部会 遺伝子組換え食品等調査会で検討されることになり、第1回の調査会が9月19日に開催されました。

食品衛生法第11条に基づく食品・食品添加物の規格基準の「第1 食品 A 食品一般の成分規格 2（以下略）」の改正等が検討されます。併せて、検知法も検討されると思われます。

スケジュール：11月～1月 同調査会 2月頃 意見募集 3月食品衛生分科会

2. 遺伝子組換え食品の表示（消費者庁）

遺伝子組換え食品の表示基準が改正されることとなり、パブリックコメントに付する案（内閣府令案）等の説明会（情報交換会）が、10月15日から全国7か所で開催されます。

3. 規格基準の改正 食品添加物フルジオキシニルの使用基準

9月21日、食品衛生法に基づく規格基準の改正が告示され、食品添加物フルジオキシニル（ポストハーベスト）の使用基準が緩和され、アボガド、パイナップル、パパイヤ、ばれいしょ、マンゴーへの使用が可能となりました。

4. ワイン添加物の規制緩和

昨年12月のEUとの経済連携協定（EPA）の締結に伴いEU産ワインの添加物28品目を認めるための手続が始まり、既に、二炭酸ジメチルとアルゴンの安全性評価が進められています。

尚、EUとのEPAの発効のためには、国会（秋の臨時国会または次期通常国会）での承認が必

<https://www.fda.gov/Food/RecallsOutbreaksEmergencies/SafetyAlertsAdvisories/ucm618058.htm>

5. 食品の放射能問題

（原子力災害対策特別措置法第20条第2項の規定に基づく食品の出荷制限）

① 福島県、青森県、岩手県、宮城県、山形県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県の特定の動植物の出荷の制限

② 9月の新たな出荷制限はありません。

6. EU 査察報告：日本の水産物製品

3月5～16日に実施された日本の水産物の査察の報告書です。EUへの輸出が認可されている151の登録施設（加工：50 冷蔵倉庫：96 冷凍船：96）から、EUに輸出されている。

冷凍船のHACCP要件を除き、EUの手順に準拠した適切な手順に基づいているが、不十分な点も認められたとのこと。

http://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit_reports/details.cfm?rep_inspection_ref=2018-6389

7. カナダ 部分水添油使用禁止

2017年9月15日 ヘルスカナダは、食品への部分水添油の使用を禁止し移行期間を設けていましたが、「食品中の汚染物質と不純物のリスト」に部分水添油 (Partially hydrogenated oils) を加え、本年9月17日から全ての食品への使用を禁止する変更通知を出したとのことです。次の URL にリストが掲載されています。

<https://www.canada.ca/en/health-canada/services/food-nutrition/food-safety/chemical-contaminants/contaminants-adulterating-substances-foods.html>

8. FDA 消費者に販売されるところでの液体窒素使用に警告

8月30日、FDAは消費者に販売されるところで液体窒素を使用して作る食品の摂取や取り扱いに警告しました。内臓や皮膚に重大な障害を引き起こすとのことです

<https://www.fda.gov/Food/RecallsOutbreaksEmergencies/SafetyAlertsAdvisories/ucm618058.htm>
近頃、日本でも見かけるようになりました。

9. プロバイオティクスの疑問

1) プロバイオティクス微生物が、消化管に住み着くか？

胃カメラと腸内内視鏡を使ったベースライン微生物（個々人の消化管内に住み着く微生物）とプロバイオティクス3~4週間摂取後の微生物を比較検討したところ、ヒトによる差が大きいことが明らかになったとのことです。

2) 広域抗生物質投与後では、プロバイオティクス微生物の定着は容易であったが、広域抗生物質投与前の正常な状態に回復することを週ヵ月間阻害したとのことです。一方、自分の糞便の移植では、数日で正常な状態に回復したとのことです。

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2018-09/wios-ail090618.php

10. スタチン 糖尿病でない75歳以上に役立たない可能性（英国）

スペインのデータベース情報から、75歳以上の46,864人を調べたところ、7,502人にスタチンが最初に処方されていた。糖尿病では、心臓発作脳卒中中のリスクは、減少したが、糖尿病ではない場合には効果がないことが判明したとのことです。

<https://www.nhs.uk/news/older-people/statins-may-not-help-over-75s-without-diabetes/>

11. 世界的な飢饉が増加 新たな国連報告（WHO）

「2017年、8億2100万人が飢饉、1億5000万人の子どもが成長不良、飢饉根絶目標は危機に」とWHOの「The State of Food Security and Nutrition in the World 2018」で発表されました。紛争、不況、気候変動等が原因として挙げられています。

<http://www.who.int/news-room/detail/11-09-2018-global-hunger-continues-to-rise---new-un-report-says>

12. 最初の遺伝子組換え蚊がアフリカで放出

アフリカのブルキナファソ (Burkina Faso) で、計画の初期段階のデータ収集を目的として、遺伝子組換え蚊 (不妊雄) 約 1 万が放出されるとのことです。マラリアとの戦いの新しい局面が開かれることとなります。

<https://www.telegraph.co.uk/news/0/first-genetically-modified-mosquitoes-set-released-africa>

13. コーネル大学の研究者の論文不正 (捏造)

9 月 20 日、コーネル大学は、食品研究者のワンシンク教授 (Brian Wansink) が、学問的不正により辞職したと発表しました。同教授は、イグノーベル賞 (2007 年) を受賞する等で食品消費の行動心理学で著名な研究者です。消費者教育財団も設立しています。

<https://nationalpost.com/news/world/cornell-review-finds-academic-misconduct-by-food-researcher>

14. 健康的な食品 (healthy food) が高級品に、しかし、このライフスタイルはコストに見合うか?

「高価な食品やスーパーフードが健康に良い」という考えは、「普通の野菜や果物を食事に取り入れることが健康に良い」という事実を見えにくくする。高いお金を出さなくても、健康的な食生活ができる。高級食材の摂取を持て囃すようになればなるほど、健康的な食品は高すぎるとの考えが強くなり、持てる者と持たざるものの分断がますます大きくなる。オーガニック (有機) の吹聴も含めた批判です。

<https://thehill.com/opinion/healthcare/405865-healthy-food-has-gone-high-end-but-is-the-lifestyle-trend-worth-the-cost>

15. 輸入食品の違反事例

- ・株式会社カーギルジャパンが、エクアドルから輸入した生鮮カカオ豆の命令検査で一律基準を超える 2,4-D (0.02ppm) 検出による成分規格不適合とされ、廃棄、積戻し等が指示されました。カカオ豆の食品衛生法違反は、継続しており、輸入者の姿勢が疑われます。

*2,4-D: フェノキシ酸系除草剤

- ・ANA フーズ株式会社がフィリピンから輸入した生鮮バナナのモニタリング検査でフィプロニル検出 (0.006ppm) による成分規格不適合とされ、廃棄、積戻し等が指示されました。

*フィプロニル: ネオニコチノイド系殺虫剤

現在のバナナの残留基準: 0.005ppm (2018 年 2 月 28 日の告示、猶予期間 6 ヶ月)

- ・株式会社ユニオンがアルゼンチンから輸入した生鮮レモンのモニタリング検査でイマザリル 5.4ppm 検出による成分規格不適合とされ、廃棄、積戻し等が指示されました。

*イマザリル: ポストハーベスト 残留基準: 5.0ppm

(作成: 2018 年 9 月 28 日)